



# 熊本支部報

(公社)日本山岳会熊本支部

第63号

令和7年9月25日発行

発行者 土井 理

編集者 田北 芳博

(公社)日本山岳会熊本支部事務局

熊本県玉名郡長洲町宮野 2488-2

城戸邦晴 方



一目山 (くじゅうスキー場付近より 10月下旬)

目 次	ページ
1 春の登山教室 万年山(1140m)+鍋ヶ滝	中村 寛 ②
2 猿岳自然観察会	城戸 邦晴 ④
3 日本山岳会熊本支部 登山技術講習会報告	土井 理 ⑥
4 利尻山登山記 (追記) 今回の利尻岳登山ツアーについて	城戸 邦晴 ⑦ 田北 芳博 ⑩
5 南アルプス遠征登山報告	土井 理 ⑫
6 鏡山 720.3m (芦北町)報告書 トレーニング同好会	戸上 貴雄 ⑯
7 令和7年度ビールパーティ	城戸 邦晴 ⑯
8 山の日登山祭中止について	支部長 土井 理 ⑯
9 田部井淳子と日本山岳会熊本支部の接点	松本 莊爾 ⑯
10 会員の異動	城戸 邦晴 ⑯

# 1 春の登山教室 万年山(1140m) + 鍋ヶ滝

担当：中村寛

令和7年5月25日(日曜日)

万年山(はねやま)に【ミヤマキリシマ】を見に行きました。頂上までの高低差は300m、そこからは下りですが、雨の中、コースを歩きました。二段メサ(卓上台地)を歩き下るとミヤマキリシマの【お花畠】に着きます。帰りは、滝の裏側に入れる【鍋ヶ滝】に寄り滝のシャワーを浴びました。

5月25日(日曜日)

7時発 菊池市民広場

8時30分着 道の駅小国 トイレ休憩(約15分)

9時30分 吉武台登山口着 まんじゅう石 40分程で万年山牧場 バイオトイレ有り

10時36分 万年山頂上着 記念撮影 西万年(3等三角点)へ

11時43分 ハナグリ登山口着 さらに40分程でお花畠(ミヤマキリシマの群生地)

13時49分 吉武台登山口着

15時 鍋ヶ滝着

16時10分 菊池市民広場着

## A班リーダー中村寛

原田成治、安場俊郎、石井文雄、  
田北芳博、村上浩明、森美代子  
高野園、岩村伸一、原史郎  
園田みどり、安永供雄

## B班リーダー赤星隆弘

中林暉幸、池田清志、山本直、  
前田節子、葉文子、松尾重勝、  
中島裕三、富田隆臣、佐藤哲郎  
川上春枝、土井理(フリー) 計24名

7時前に菊池市民広場に集合、マイクロバスで登山口迄向かいました。途中ドライバーが、道を間違え30分程ロス。私の他数名気付いた人がいましたが、プロだから近道を通るのだろうと思っていました。

バスが着いた時には、駐車場はほぼ満車状態で、この時期万年山の人気が伺えます。またこのミヤマキリシマの時だけ清掃協力金500円を徴収しています。もう一つの登山口にも控えています。私は支払いましたが、これも11時前には終了しているようです。

当日は小雨で早速雨具を装い、屋根の下で皆さんを紹介。ところが、2名いない。電話もメールも届かない、確認できないまま、登山を開始することにしました。私有地の牧場を通るため柵を開けて通らなければならない。ただ近くには牛はないし、晴れいたら空にひばりが鳴いているのに、今日は雨でいない。



お花畠にて

私有地の牧場の柵を閉めて出ると、キャンプ場とトイレがある。ここで一休みする。ここはトイレは冬場から4月はじめ頃まで凍結のため閉めてあるので注意。ここから1時間で万年山頂上に着いた。途中の案内板には、玖珠町(くすまち)だからか、南アルクスコースと書いてある。

頂上には行方不明2人はいなかった。まだ不安を感じて皆さんを案内しました。登山口は他に南側の黒猪鹿(くろいか)コースがあり、いきなり万年山頂上に出ますが、杉林や背丈ほどのクマザサをかき分けて登らなければなりませんのでお勧めできません。

遠くから見ると万年山はテーブルの形に見えます。岩盤が固いので周りの柔らかい土地が長い間に風雨にさらされこの形になりました。一等三角点があります。ここからはやや下りになります。途中展望のきかない西万年に寄り1時間程でハナグリ登山口に着きました。この後はお目当てのお花畠に向かいます。

ハナグリ登山口から約40分程でお目当てのお花畠に到着。ここでゆっくりと食事とミヤマキリシマの鑑賞を楽しみました。二人はここで食事をしていました。やっと不安が解消しました。意外と広く公園化されているのでゆっくりできます。昼くらいから訪れる人も多くいます。

今回のコースですが、3から4時間の登山で楽しめます。またお花畠目的ならハナグリ登山口まで車でいくこともできます。今回は、この後鍋ヶ滝によりました。完全予約制とありますが、5月のGWと8月のお盆の日を除いて予約なしでも入場できます。小国町役場で確認済みです

くじゅうが数年、虫の害に侵されている時も万年山は特別、問題なく咲いていました。くじゅうより、1週ほど早く咲くようです。翌週平治岳に行きましたが、今年は、虫の害もなく数年前と変わらない姿を楽しむことができました。



頂上での記念撮影。小雨がずっと続いてました。



今回の万年山登山コース



お花畠にて集合写真

## 2 猿師岳自然観察会

城戸邦晴

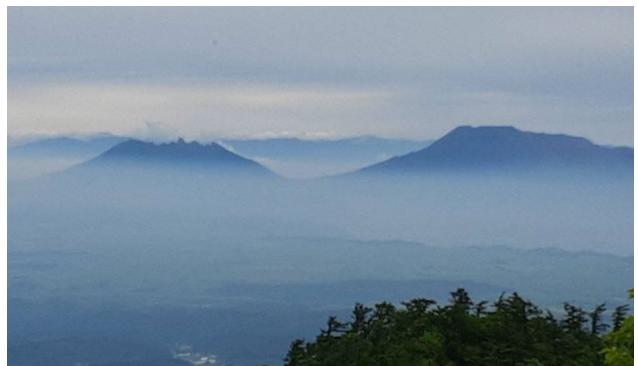
期日 6月8日(日) 行先 くじゅう猿師岳

この日から梅雨入りと発表されたが、小雨決行と発表していて、予定通り実行となった。

参加予定 20人が 17人となつたが、朝7時出発の20分前にはほとんど集まつていた。

7時過ぎに出発し、8時35分にスキー場へ着いた。準備をして8時49分に登山開始。9時12分に林道に出て花を探した。木はすぐに見つかったが1本だけ、花はつぼみが色づいていたが開いてはいなかつた。皆大切に眺め、写真を撮つたがちょっと物足りなさそうだった。一行はここから猿師岳山頂へ向かう。運転手の4人はやまなみハイウェイの猿師岳登山口へ車を回しそこから猿師岳へ登るということになった。9時32分林道から登り始め、シャクナゲの繁る道を急騰し、やがて明るい笛の生えた道を進むと開けて明るくなりやがて頂上に着いた。ちょうど10時だった。雨の気配はなく、曇り空だが阿蘇の根子岳・高岳が雲の上にくっきりと浮かんでいた。カッコーの鳴き声がしきりに聞こえた。

運転手組はなかなか登つてこないが、休憩しお菓子を食べたりしながら待つていると10時45分頃登ってきた。やはり相応の時間がかかった。写真を撮り、下山を開始したのは10時55分。11時30分にやまなみ道路沿いの登山口へ到着。これから長者原へ向かう。長者原ビジターセンタ



写真は猿師岳から見た阿蘇

ーへ11時50分に到着。小雨が降つてゐたので道路を渡り東屋へ入つて昼食にした。食事を済ませてビジターセンターに入った。12時30分から1時30分までの間、センター見学組と湿原観察組とに分かれた。

雨は上がりつており、木道も濡れてはいなかつた。半周コースをめぐつて花を探したが、6月はめぼしい花は少なかつた。キスミレがまず目に入った。ハンカイソウがあつた。木道終わり近くになりシリイトソウが見つかった。そして近くに次々とあらわれた。大小さまざまな花が沢山あつた。サワ

オグルマ、ニガナなど黄色の花が目立った。

1時30分集合し、帰路についた。大津に帰り着いたのは

2時45分。天気がもってくれたことに感謝して、解散した。

一般参加の女性2人が入会の意思を示したので、説明をし、会員への予備期間前提で会友となることを了承した

ので、入会届を送ることにした。自然観察会は一般募集を新聞広告でおこなっており、会に関心を示した人には説明し、入会のきっかけにしたい。

(参加者) 中林暉幸、田上裕輝、山本直、松尾重勝、中村寛、岩下律雄、城戸邦晴、前田節子、森尾奈美、石坂征勝、川上春枝、志水由紀、坂井哲矢 (以上会員会友) 橋本伊津子、山道和弘、岩村伸一、梶原敦子 (以上一般参加) 合計17名

(観察した主な植物) オオヤマレンゲ、タンナサワフタギ、ツクシシヤクナゲ、ミヤマキリシマ、ニガナ、オトコヨウヅメ、ウマノアシガタ、シライトイソウ、サワオグルマ、ハンカイソウ、キスミレ、ノアザミ



蓼原湿原にて



オオヤマレンゲ、後日祖母山にて撮影



獣師岳集合写真



今回の獣師岳コース

### 3 日本山岳会熊本支部 登山技術講習会報告

土井 理

期日：2025年6月15日（日曜日）

場所：熊本県玉名市小岱山「人形岩」

天候が午前中は何とか曇りの天気であった為早めに切り上げる事とし開催いたしました。

9:00 小岱山管理棟の小岱山駐車場に集合。

参加者は中林暉幸、城戸邦晴、土井理、岩下律雄、赤星隆弘、浦川留美、森美代子、前田節子 の8人になりました。

駐車場で簡単なロープワークを行いました。8の字結び、ボーラインノット(もやい結び)、バタフライノット、クローブヒッチ 等

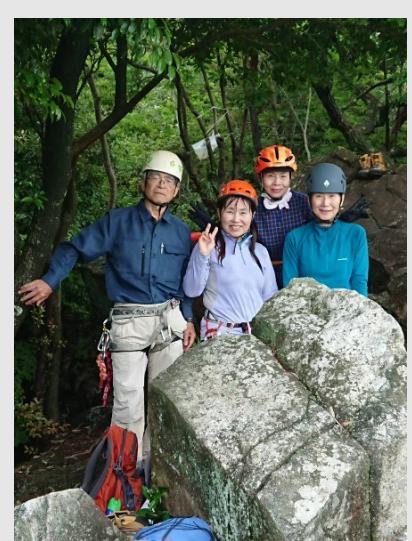
9:35ハーネス装着し、乗り合わせで人形岩登山口駐車場へ向かいました。

9:40 人形岩に向けて登山。10:10には約20分で人形岩到着。

人形岩に到着したら安場さんが来られました。

南側クラック部分と、西側斜面に2本ザイル設置し、トップロープでの登攀、懸垂下降の練習を行いました。天候は怪しく天気予報通りに13時頃には雨が落ち始めました。13:30 下山開始、13:45には下山終了車で駐車場に戻って、管理棟で食事をとった。

人形岩は比較的簡単に来られ今後も練習には有用な場所と思われた。



## 4 利尻山登山記

城戸邦晴

生涯に登ってみたい山の一つが利尻山であった（なお、深田久弥は利尻岳と呼んでいる）。

利尻空港に降り立ったとき、振返ると利尻山が目に飛び込んできた。鋭く天に突き出し裾野を左右に拡げた形のよい、谷間に雪を残した青く美しい山容の利尻山だった。鮮やかな映像がまぶたに焼き付いた。自分の残り少ない人生で忘れられない山となる予感がした。利尻山は島のどこからでも見えた。どの方角から見ても美しく天にそびえていた。

7月10日、3時50分ころ太陽が登った。利尻山のシルエットが美しい。4時に宿の車で送ってもらう。6分ほどで北麓野営場登山口についた。テントがいくつか張ってあった。ここは鴛泊コースの三合目にあたる。入口の道路に水を張つてあり、利尻島の自然を守るために靴底に着いた泥を水で落として入山してくれと書いてあった。外来種を持ち込まないための防御策であった。こういうことはキチンと守ろう。

4:15 登山スタートする。さわやかな朝であった。小鳥の囀りがしきりに聞こえる。ミソサザイの囀も聞こえた。このルートは登り所要時間は5時間である。登山道には各合目ごとに角柱に表示がなされているので現在地がすぐに判る。

4:25 「甘露泉水」という表示があって、脇に小さな流れがあった。コース最後の水場らしい。みんな水を水筒に詰めている。口に含むとじつに冷たくておいしかった。4:55 四合目、小休止（～5:08）。トドマツ、エゾマツの針葉樹林帯のなかを登って行く。木枝が垂れているのがエゾマツである。

北国の山に来た印象を強く感じさせる。



利尻山の雄姿



利尻山山頂を目指して

5:40 五合目、ここで健脚組とゆっくり組の二つに分かれる。

中林氏と二人で先に立つ。森は広葉樹林に変わり、ダケカンバ林の中を登って行く。林床は笹におおわれている。ダケカンバがきれいな林であった。美しい風景の中に行くのは疲れを感じない。

6:06 六合目、小休止（～6:10）。熱中症にならないよう、つねに水を少し飲む。小腹がすいたので軽く行動食を摂る。

6:30 七合目、この辺りにはハイマツが広がっている。なぜか懐かしい気持ちがする風景。この先**胸突き八丁**と表示あり、急登になる。これが結構長かった。

7:00 第2見晴し台着、小休止（～7:10）。このあたりからは高い樹木はない。

7:25 八合目・長官山（1218m・一等三角点）この先に利尻**避難小屋**があり、トイレブースがある（～7:45）。山頂が美しく見えている。左側斜面に雪渓がある。眼前の景色に気持ちが奮い立つ。

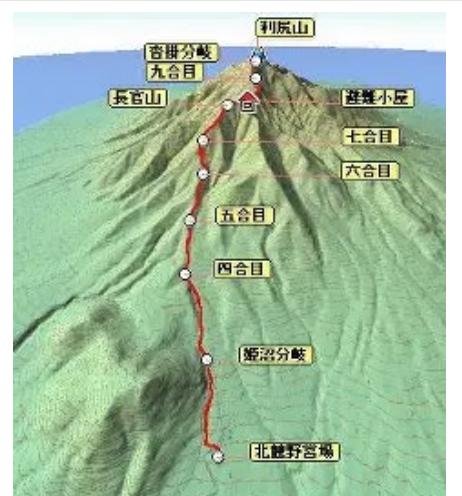
8:12 1320m地点通過。

8:27 九合目で休憩（～8:40）。この山は常に崩壊を続いている。岩の隙間にしみ込んだ水が凍って膨張し岩を崩していくのである。足元にはザレ場が続く。ゆっくり確実に登る。

9:01 九合五勺で小休止（～9:08）。休憩が多くなる。

登りは急である。右の斜面に自分の影が映っていた。稜線の狭い登山道を登る。大きく崩れた部分に差し掛かると、大型の黒いポリエチレン排水管を縦にして内部に砂礫を詰めて登山道を修復してあった、こうしないとすぐに道が崩れるとのことだ。これらは全て人力でおこなわれた作業だろう、大変な力仕事だ。国立公園特別指定地域だからできるのだろうと思いながら登った。頂上直下、緊張していたので疲労は感じなかった。

9:35 ついに頂上に到着した。赤い板に囲まれた小さな神社があった。山頂は周囲に障害物がなく、360度の展望だった。周辺の足元はロープが張ってあり、その先は絶壁だった。



利尻山登山コース



利尻山山頂にて

はるか足元に散在する集落が見える。緑の森が広がり、海岸線がぐるりと回り、この山を取り囲んでいるのが判る。美しい海、昨日行った礼文島、そして稚内半島、宗谷岬、サハリンまで見えたのは気のせいか。空気が澄んでいるのでどこまでも見えるようだ。山頂の三角点は石に覆われていた。登りに正味 5 時間要したことになるが、ほぼ予定通りであった。西側から登る脊形ルートがあるが、こちらは一部崩壊し危険なので通行禁止のロープがあり、それを超えて立入り写真を取っている人がいた。気持ちはわかるが…。

脊形登山道は足元から切れ落ちて危険に見えるが道は明確なので、事情が許せば下りたいところが、今回それはできない。目の前にローソク岩といわれる岩峰がそびえていた。

昼食をとり、写真を撮っていると 10:00 ごろ戸上氏が登ってきた。他のメンバーが休憩しているのを置いてきたという。一緒に登っていた石坂氏は途中で諦めたらしい。

10:30 頃、池田氏と上田氏が登ってきた。これで全員登頂した。揃って記念写真を撮った。私はここに再び来ることはないだろうと思うと、山頂を去り難い気持ちであった。

10:38 頂上を出発。下山する。

下りで岩の上に立って小用を足している男性を見た。用便はすべてトイレブースでという利尻ルールを知らないのか、こういう人は来ないで欲しいと思いながら下った。自分は 8 合目のトイレブースに入って簡易トイレを使った。古い物で劣化しているか心配でビニール袋で重ねてくるんでザックに入れた。(登山口の道路わきに簡易トイレ回収ボックスがあったので私はそこに捨てた)。ここは利尻山だ、山の自然を守る見本の最先端の山なのだから、ルールは厳守しなければならない。

下山の途中、雨が降ってきた。幸いすぐに止んだ。濡れることもなかったが、連日の好天が終りに近づいていた。天候には恵まれた素晴らしい山行であった。

14:25 登山口着。下りに 3 時間 50 分要した。

利尻山は憧れの山だった。そして期待を裏切らなかった。私が生涯に登った山の中で(決して多くはないが)感動の大きさで比べれば穂高岳と同じくらいであった。富士山も南アルプ



スも及ばなかった。前日に礼文島に渡り、レブンウスユキソウを見た。ウスユキソウはアルプスのエーデルワイスの仲間で、日本には5種類が存在するが、花の回りの苞葉の白い産毛が雪を積んだように見えることからこの名がつく。レブンウスユキソウはその中でも特にエーデルワイスに形が似ている。私は礼文島でこの花を見たかった。海に面した断崖の縁



レブンウスユキソウ

に広がる草原状のお花畠にたくさん咲いていた。礼文島は花の宝庫で、礼文の地名を冠する花は多いが、レブンアツモリソウと並んで有名な花である。レブンアツモリソウは終わっていた。

クロユリも見たかったが、郷土資料館の植物園で花が終わったあとのものを見ただけである。クロユリは北アルプスにも存するが、「黒百合の歌」で知られる、北海道を代表する花の一つである。しかし、歌やいわれを知っている人は今回のメンバーには少なかった。

## (追記) 今回の利尻岳登山ツアーについて

田北 芳博

今回の利尻岳登山の計画者は、池田清志氏である。1年前でなければ航空券がとれないからと、すでに昨年7月には手配済みであった。かなり安く航空券は手に入った。私は個人的な事情でツアーを降りようかと思ったがなんとか参加することができた。

利尻岳登山は往復12時間かかるとのことで、事前に登頂を目指して訓練したメンバーもいた。往復の飛行機は乗り継ぎ時間の余裕が少なく忙しかったが、熊本から利尻まで移動時間は短く感じた。

参加者（8名）池田清志、池田のり子、中林暉幸、城戸邦晴、戸上貴雄、石坂征勝、上田英典（池田氏友人）、田北芳博

ツアーの日程は7月8日から7月11日まで、毎日山歩きが中心であった。

7月8日 到着日午後 鴛泊の宿からペシ岬往復（鴛泊 旅館 雪国泊）

7月9日 フェリーにて礼文島へ、桃岩展望台コースハイキング、レブンウスユキソウ群生地（鴛泊 ペンション レラ・モシリ泊）

7月10日 利尻岳登山 メンバー7人で登山、1人だけ利尻島写真撮影（鴛泊 ペンション レラ・モシリ泊）

7月11日 出発日午前 レンターカー利用、利尻島一周（姫沼ハイキング、利尻島郷土資料館、オタトマリ沼ハイキング、白い恋人の丘、南浜湿原、仙法志御崎公園、など）

## ※利尻山と利尻岳

本誌には、今回、利尻山と利尻岳の二つの呼び方が登場します。利尻山（岳）には両方の呼び方が使われており、どちらも正解といえると思います。また、本誌の獣師山にも獣師岳と獣師山も2つの呼び方があるようです。山と岳の使い方を調べると面白いかもしれません。



初日 ペシ岬の鴛泊灯台前にて



北のカナリアパーク



礼文島 レブンウスユキソウ群生地



利尻島 白い恋人の丘



早朝の利尻岳



礼文島からの利尻岳

## 5 日本山岳会熊本支部 2025 年度南アルプス遠征登山報告 担当：土井 理

参加人数 10 人、土井理、中村寛、赤星隆弘、城戸邦晴、城戸幹雄、城戸郁子、中林暉幸、浦川留美、前田節子、森美代子

今間まで経験した事がない天候：なんと 4 日間全て快晴。

7 月 18 日(金)平日

18:41 熊本駅発 みずほ 610 号 博多着 19:13 博多乗り換え 乗換時間 17 分

土井、赤星、中林、浦川、前田、森 の 6 人が熊本から乗車

18:30 新玉名駅発 つばめ 330 号 博多着 19:30 博多乗り換え 乗換時間 21 分

博多で中村、城戸邦晴の 2 名と合流し京都に向かった。

合流後 19:30 博多着発 のぞみ 270 号 京都着 22:14 京都乗り換え 乗換時間 49 分

京都駅前八条口 F3 乗り場 23:03 発 夜行近鉄バス「クリスタルライナー」甲府行き

近くのコンビニで各々必要な食料や飲み物を購入しバスに乗車した。3 列シートであったが十分に睡眠がとれない方もおられた様子であった。

7 月 19 日(土) 6:30 垂崎駅前でバスを降車、垂崎駅で城戸幹雄、城戸郁子 2 名と合流した。駅でトイレを済ませ、6:30 に予約していた甲斐タクシーで垂崎から芦安駐車場に向かった。芦安駐車場の乗合タクシー乗り場に到着する。

7:00 に芦安観光タクシー予約していたが予約が入っていないと不安の話が出現。予約確認メールを担当者に見せると、やはり予約出来ていた様で、乗合タクシーで芦安駐車場から広河原へ乗車し向かった。7:30 広河原到着—8:06 トイレをすませ出発。

10 人と人数が多く、先頭と最後部が開く為、先頭を土井が担当し、後班の先頭を赤星さんにお願いし 2 班に分けて登山した。11:00 土井、浦川、森、城戸幹雄、城戸郁子の 5 人が先行し白根御池に到着。赤星、城戸邦晴、中村、中林、前田は約 15 分～20 分遅れて白根御池小屋到着した。ここから急登の草滑りを避けて、白根御池の脇を通過し右俣ルートを選択し肩の小屋へ向かった。16:00 やや遅れて肩の小屋 3000m に到着した。肩の小屋から今どこですかとの電話が 16 時 10 分前にあった。

肩の小屋の見える稜線にたどり着くと、城戸邦晴、中村、中林、前田は疲れた様子で稜線に上がった所で少し休憩し、16:15 頃肩の小屋に到着した。

夕食は有名な「肩ロースステーキ」ではなかった。ヘリコプターで食料等荷揚げするのだが、直前まで天候が悪く、十分な荷揚げが出来ていなかった様子。肩の小屋は以前を知つていれば感動する様に大変きれいな新築の山小屋になっていた。鳳凰三山、八ヶ岳連峰、富士山、中央アルプス、北アルプスと日本の屋根と言われる山々が全て一望でき感動の眺望であった。有料であったが携帯の充電も出来た。

初日：登り 1600m、下り 95m、移動距離 5.7km

7 月 20 日(日)

6:00 肩の小屋—6:37 北岳山頂 3193m—8:05 北岳山荘 2900m—9:05 中白根峰—

10:30 間ノ岳: 3189m—12:45 農鳥小屋 2800m に到着した。農鳥小屋の有名な小屋番の親父さんは奈

良田に下りているとの事であった。小屋番の女性は私が行った講習会の参加者で、私の事を知っていた。**2日目：登り 589m、下り 796m、移動距離 6.1km**

下の水場で水浴びし、水を汲んで翌日に備えた。往復で 50 分程度であった。

農鳥小屋のテント場で予期せず、熊本の山の知人、天本さんに遭遇した。単独で来られており、荒倉の方に行くとの事であった。農鳥小屋にはスターリングの Wi-Fi が使用できた。時間が決められていたが大変役に立った。バナーコッヘル持って行ったが、お湯は農鳥小屋のスタッフの方から必要に応じてポットで提供して頂いた。感謝。天候が良く、汗で濡れた、水浴びで濡れた服は外に置いておくとすぐに乾く状態であった。早目に夕食も摂取し翌日の山行に備えた。

7月 21 日(月祝日:海の日)

5:26 農鳥小屋—6:40 西農鳥岳:3051m—西農鳥岳登山中に再度、下山中の天本さんに遭遇。農鳥に行って日の出を見てきたとの事—7:20 農鳥岳:3026m—8:50 大門沢分岐—

9:10 少しゆっくりして大門沢の激下りを大門沢小屋を目指し下山開始した—

農鳥岳付近から中林さんが下痢を訴える様になった。大門沢分岐で、赤星さんが持参されていたお腹の薬を服用され、その後は改善した様子であった。

12:20 大門沢小屋 1765m 到着： 3日目 登り 371m、下り 1355m、移動距離 5.6km

初日から大門沢分岐迄の天候は全て快晴、日の出から日の入り迄ずっと富士山や南アルプス、北アルプスが見えていると言う絶景が広がる山行となつた。下山時の大門沢の滝の様な絶景も堪能していただき、大門沢小屋に下った。

到着後、男性陣は小屋下の沢で水浴びを行つた。沢の水は冷たく、長くは入つてはいる事はできない様に冷たかった。大門沢小屋は土井が国際認定山岳医との事で割引を入れて頂いた。

韓国人のツアーの方が下山時に滑落し左前額部と左大腿の皮下出血による腫脹を認め、顔面蒼白で座っていた。診察し下山したら医療機関受診する様にガイドに説明し応急処置を行つた。

7月 22 日(火:平日)

5:35 大門沢小屋出発—8:12 大門沢登山口—8:57 奈良田第一発電所—9:30 奈良田温泉に到着した—奈良田温泉 女帝の湯で入浴し各自昼食を摂つた。

下山コースは、木を渡しただけの橋等、数か所あり注意して渡り、最後の吊り橋も一人づつ慎重に渡り下山した。

女帝の湯の裏の「早川町立南アルプス山岳写真館・白旗史朗記念館」に希望者は立ち寄り鑑賞した。

**登り 278m、下り 1149m、移動距離 8.3km**

バス停は女帝の湯のすぐ下であり、到着するバスが見えたので、皆で少し早くバス停に向かった。

バスを待つ間に雨がぱらつき、帰りバス乗車中は大雨になつた。

13:50 奈良田温泉発 早川町乗合バス(バス料金 800 円 + 荷物料金 200 円)

14:59 下部温泉駅着 乗換時間 21 分 下部温泉で城戸幹雄、城戸郁子夫妻に挨拶をして別れた。下界の下部温泉駅では雨は上がつてゐた。

15:20 下部温泉駅発—JR 身延線 特急ふじかわ 10 号—16:58 静岡駅 乗換時間 9 分

17:07 静岡発—ひかり 519 号—18:01 名古屋駅 乗換時間 9 分 名古屋駅で夕食として弁当を購入した。18:10 名古屋発—のぞみ 49 号—博多駅 21:30 乗換時間 15 分

21:45 博多駅発一つばめ 343 号一新玉名着 22:25: 玉名で中村、城戸邦晴の 2 名が下車 - 熊本着 22:35: 各自帰途に着いた。

全てがスケジュール通りにはこび、山行中はあり得ない程の快晴好天に恵まれ、事故や問題も無く、絶景の中の、心に残る山行になった。

担当 土井 理 連絡先 TEL 090-3074-1029 Mail: [osamu-doi@gaea.ocn.ne.jp](mailto:osamu-doi@gaea.ocn.ne.jp)



広河原登山口



白根御池小屋



肩の小屋と 2 日目出発前



いつも見えていた富士山



北岳肩の小屋



間ノ岳頂上



肩の小屋前にて



農鳥山頂



大門沢小屋



農鳥小屋



今回の白根三山登山コース

## 6 「鏡山 720.3m(芦北町)」報告書

トレーニング同好会 / 戸上 貴雄

[歩行距離:約 600m、単純標高差:80m、休憩等含む全所要:54分]

期日 令和7年8月16日(土)

参加者 池田清志・戸上貴雄 二名

集合 道の駅竜北 7:00 集合～戸上車一台に乗り合せて出発

経路等 国道3号～日奈久インターに入る～芦北インター下りる～県道27号～塩浸～大野～県道331号～林道～芦北高校演習林入口ゲート前(登山口) 8:45 着  
※これより登山行動 9:11 出発～9:30 鏡山山頂 9:43～9:58 林道～10:05 登山口  
※これより帰路 林道～譲葉牧場～一勝地駅～国道219号～球泉洞前～八代市～国道3号～12:40 道の駅竜北 帰着 / 解散

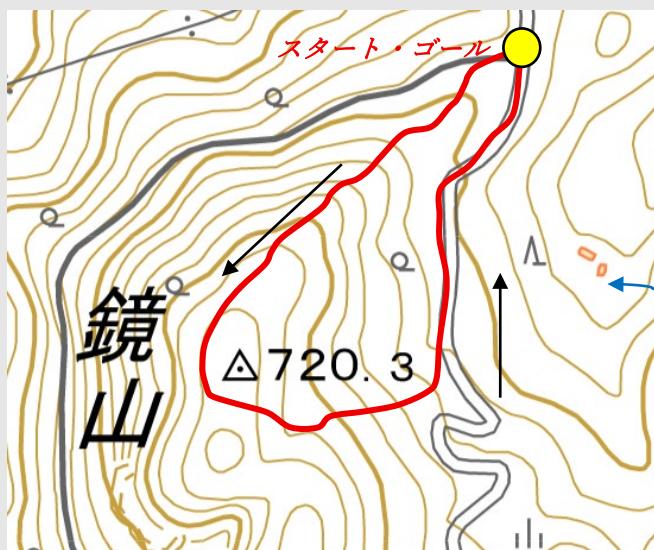
経費 参加費(ガソリン代) 1人当たり 1,500円 ※走行距離 127km

酷暑・猛暑・炎暑が続くかと思えば災害級の大雨に見舞われる(山の日登山祭も中止)など、天候不順亂高下(?)する中、この日は幸いにして好天気となり山行を実施出来た。

やはり暑い日ではあったが、登山行動時間 54 分かつ単純標高差 80m の、陽の当たらぬ暖勾配樹林帯楽々コースだったため、殆ど汗をかくこともなかった。

この鏡山は、権現山及び虎石山と合わせ「芦北三山」と呼ばれているようである。

登山本に紹介されることもない序二段クラスの山だが、山頂の三等三角点にタッチしただけで小さなノルマを果たした気分になった。



## 7 令和7年度ビールパーティ

城戸 邦晴

今夏のビールパーティは8月23日(土)午後4時から、場所は昨年と同じ熊本市役所14階のダイニングカフェ彩で行われました。

今回は開始時間が早かったのでまだ明るく、暑い時間に集合することとなりました。会場は連続利用してお馴染みとなり、正面に映写用の白い幕が用意されていました。これは驚きました。他に客はおらず私たちで貸切りになっていました。

定刻通り始まり、支部長の挨拶、松本顧問による乾杯がなされました。1時間ほど食事懇談して一息ついた頃、土井支部長から南アルプス山行報告が画像を使ってなされました。山行参加メンバー10名のうち5名がビールパーティに参加していました。全員が一言ずつ山行参加の感想を話し、興奮の一端が披露されました。こういう登山が毎年一つぐらいあってほしいとの声が聞かれました。カーテン越しに入る光線が明るくて映写効果がうすれたのではないかと残念でした。この山行は12月の登山報告会で詳しく報告されます。皆さんそちらもぜひご参加ください。

松本顧問から田部井順子さんを描いた映画が制作されたので田部井さんが熊本支部の登山写真展に立寄られたエピソードを話されました。女子によるエベレスト初登頂という大きな成果を残された人なのに、驕らず、くだけた人柄に感心したという内容でした。映画は10月に上映される『てっ�んの向こうにあなたがいる』です。皆さんぜひご覧ください。（この支部報の最終ページに掲載しています）

その後事務局から年内の支部行事を説明し、ことに9月の九州5支部懇談会には熊本支部は地元なので大勢参加してくださいと呼掛けました。

6時に田北副支部長の万歳で締め、写真撮影後閉会して解散しましたが、まだ外は明るく、これから二次会に10人ほど向かいました。会員が行きつけの店で、連続して訪れるので皆が顔なじみとなりました。時間が早いせいで他に客はなく、やはり貸切状態でした。たっぷりとカラオケを歌って満足して、8時半ころ解散となりました。

（参加者）松本莞爾、廣永峻一、安場俊郎、田北芳博、池田清志、土井 理、山本 直、  
岩下律雄、橋本悦子、城戸邦晴、坂本雄二、三宅厚雄、田上裕輝・桜子（親子）、  
浦川留美、前田節子、赤星隆弘、森尾奈美、武田偉幸、舛田レイ子、（敬称略）



ダイニングカフェ彩会食風景



集合写真



アムールにて



アムールにて

## 8 山の日登山祭中止について

支部長 土井 理

第 10 回山の日登山祭は大雨により中止となりました。

準備に携わっていただいた会員会友の皆様にお礼を申し上げます。

2016 年から始まった山の日登山祭は今年で 10 回目を迎え、節目の年として、熊本市の象徴ともいえる金峰山で実施する案は早くから検討されていました。何度も話し合い、準備を進めて参りました。駐車場が狭いことがこれまで金峰山での実施を見送る理由でしたが、集合場所をさるすべり登山口と森の駅みちくさ館の 2箇所とすることで解決しました。仁王門登山道の周辺で森林局の伐採工事が始まり北側登山道通行が危ぶまれましたが、間道を見つけて中途がつきました。さらに、広い駐車場を確保するために草刈払い機を動員して、役員と有志の方々にご協力を戴きました。総じて会員会友の皆様にこれまでにないくらいの多大なご負担をかけてしましましたが、準備万端で山の日を迎えるところでした。

ところが予想できない大雨に見舞われました。雨天中止の決定は 8 月 9 日 15 時までに発表するとポスター等に明示していましたが、9 日の朝には 11 日まで雨が続くと天気予報は伝えていましたか

ら、正午に役員、県岳連の幹部と連絡をとり、中止を決定しました。シェルパさんのWEBと会員会友グループLINEに中止を掲載し、全ての関係先に電話しました。中止に疑問を唱えるところはありませんでした。時間とともに大雨の懸念が強まっていました。次第に雨は強くなり、10日の夜雷雨が轟き、11日の朝にはニュースが大雨の被害を伝えていました。

中止の場合には当日の朝は2カ所の集合場所に詰めるようにそれぞれの担当者に取り決めをしていましたが、道路状況を問い合わせたら通行できないとの回答で、いずれの登山口も立会いができませんでした。

これまで感染症予防のために中止をしたことはありましたが（第5回～7回）、天候による中止はありませんでした。大雨特別警報が出され、災害が発生するほどの大雨に見舞われての中止は初めてで、予想していない結果となりました。

細部にわたって準備を整えましたので、このまま中止で終わるのは残念ですが、熊本県山岳スポーツクライミング連盟と協議をいたしました結果、今年度は日程を取るのが困難で、中止やむなしとの結論に至りました。熊本市の後援を受け、保健所、警察、消防の準備態勢、地区の協力、神社の同意、放送局、メディアの準備等、協力を頂いたところは多く、あらためて感謝申し上げます。

## 9 田部井淳子と日本山岳会熊本支部の接点

松本莞爾

この度、女性で初めてエベレスト登頂に成功した田部井淳子女史の半生を描いた映画が上演されます。ここでその映画を取り上げるのは、晩年熊本支部で2010年の第2回「登山仲間が撮った写真展」をシェルパのお店をお借りして開催したとき、山の店「シェルパ」の阿南誠志氏の計らいで、日本山岳会熊本支部の仲間と懇談会を持っていただきました。当然第2回の写真展をご覧いただき、感動されたことを記憶しております。



田部井氏は支部の活動に興味を持たれ、会のこの写真展や募集登山に賛同を頂きました。彼女は1975年（昭和50年）エベレスト日本女子登山隊の副隊長及び登攀隊長として世界最高峰エベレスト登頂に成功しました。すでに50年前の快挙でした。エベレスト登頂の裏話として田部井女史が登頂した11日後チベット人のファンタグ女史が登頂しましたが、ほんの少し前に田部井女史が成功していました。その後女性のエベレスト挑戦には962回あり870名の女子が登頂に成功しています。しかし日本女子隊は女性だけの登山隊での遠征は初めてであり、いろんな面で苦労があったようです。



シェルパ写真展会場で

その後は昨年平出和也氏と中島健郎氏が遭難した「K2」にも挑み登頂しましたが「腹膜ガン」と戦いながらの壮絶な登山人生でした。6大陸の最高峰を極め、生涯で76ヶ国最高峰・最高地点への登頂に成功した田部井氏は、その後は啓蒙活動に邁進され

日本の登山の発展に寄与されました。腹膜ガンを発症してからは女性のための登山教室や、科学雑誌のバイトをこなし、登山家としての山への情熱は消えることなく頑張っていました。そんな折、東日本大震災が起こり、日本国中がしょぼくれていた時、田部井さんは高校生がまず元気になるようにと「東北の高校生の富士登山」主催し今年もその事業は続けられています。

今、高校生の登山部が衰退しつつあった中、現在では高校山岳部員は増えているそうです。

田部井女史は本人が設立した「女子登攀クラブ」を1969年に立ち上げ、そのほか日本ヒマラヤン・アドベンチャートラスト（HAT-J）＝山岳地域の環境保護活動を主催（2009年設立）現在もその意思を継いだ人々により続けられています。田部井女史は本人が設立した「女子登攀クラブ」を1969年に立ち上げ、そのほか日本ヒマラヤン・アドベンチャートラスト（HAT-J）＝山岳地域の環境保護活動を主催（2009年設立）現在もその意思を継いだ人々により続けられています。

田部井氏は2016年10月20日腹膜ガンのため死去されました。日本山岳会では各地で彼女の功績をたたえいろんな行事を開催していますが、特に埼玉県では「田部井淳子さんをしのぶ命日登山」を行っています

（埼玉支部）この映画「てっぺんの向こうにあなたがいる」（原作＝田部井淳子：「人生、山あり、時々谷あり」）は奇しくもエベレスト登頂から50年に当たり、吉永小百合・佐藤浩市が晩年の田部井氏を過酷な冬山も経験しながら演じています。

同じ山岳会の仲間として、田部井氏の生涯を追ってみては如何でしょうか？

（会員番号 8411 松本莞爾 記）



在りし日の田部井淳子



## 10 会員の異動

### 会友入退会（6月～9月）

入会 佐藤勲 田上さやか 松本徹 廣木明代 山下和記

退会 甲斐奈々子 増田修一 斎藤弘毅

編集後記 今期は各々の夏山遠征を楽しまれた方も多いと思います。白根三山縦走に加え、利尻岳遠征を掲載いたしました。また、最大のイベントである山の日登山祭が豪雨のため中止となりました。準備には多くの労力がかかりましたので中止となったイベントでも経緯を掲載いたしました。毎度のことながら皆さんからの寄稿をお待ちしております。

なかなか完璧な校正はできませんが、今回も支部報校正を城戸さん、池田さんのが役員の皆様にお願い致しました。

田北 芳博 Eメール [yt19-57@tune.ocn.ne.jp](mailto:yt19-57@tune.ocn.ne.jp) ☎ 田北 09087611471